

## アメリカ合衆国における地理教育復興運動の展開(2)

### — NCGE 大会と最新の地理教材について —

愛知教育大学 地理学教室 寺 本 潔

## The trend of Geographic Alliance Network in the United States of America (2)

### — NCGE Annual Meeting and New Materials of Geographic Studies.

Kiyoshi Teramoto

Geography Department of Aichi Univ.  
of Education

#### I はじめに

本稿は先に報告した「アメリカ合衆国における地理教育復興運動の展開(1)」(愛知教育大学教科教育センター研究報告第16号』(1992年) PP. 193~200. の続編である。

1986年から10ヵ年計画でスタートした全米地理教育復興運動は、現在その終盤に入り、各地で著しい成果をあげつつある。主要スポンサーの一つである全米地理学協会の「地理教育プログラム1991年次報告」によれば、91年度で41州においてネットワークが設けられ、NGS 夏期研修会終了者も合計376名(90年現在)に達している。彼らが各州にもどり、各州において開催する夏期研修会(筆者が前号において報告した会)の終了者も、計1,063名(90年度)にのぼり、そのすそ野は広がりがつつある。ワシントンで開かれる夏期研修会の終了者は、このプロジェクトが終了する1995年までに図1にみられるように876名にも達し、彼らが、今後のアメリカの地理教育を強く推進していく集団として期待されることが予想できよう。

ところで、筆者は本プロジェクトが動きつつある1991年~92年1月にかけてミネソタ州セントポールに居住し、この運動について調査していたが、同時期、全米地理教育協議会(National Council for Geographic Education: 以下NCGEと略記

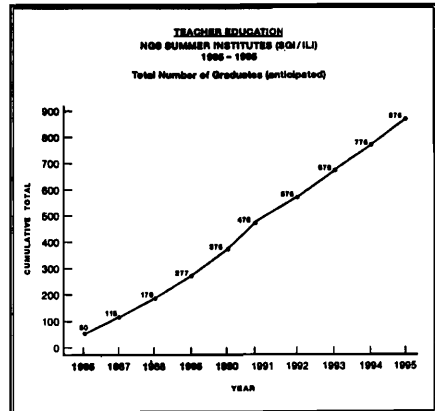


図1. NGS夏期研修会に参加した教師のべ数  
("Geography Education Program 1991  
and Beyond"より抜粋)

する)の年次大会に参加する機会を得た。全米地理教育復興運動が、全米の中心的地域教育学会でどう受けとめられているのか、この研究動向について調べる上で格好の機会となった。本稿では、この大会の内容を詳しく報告すると共に、現在アメリカで市販されている初等地理教育段階の地理教材について写真カタログ類をもとに紹介したい。

#### II NCGE 大会の概要

##### 1. NCGE の組織について

全米地理教育協議会は、1915年に創設され、アメリカの地理教育改善に大きな役割を果たしてきた。小～中、高、大学の学会員は延べ3750名に達し、現在、ペンシルベニア州のインディアナ大学に学会事務局を置いている。機関誌は、『Journal of Geography』（年6回発行）であり、エディターにロバートS. ベッドナース（テキサスA&M大学）が就いている。各号50ページ前後の小冊子ではあるが、現場教員のユニークな教材開発事例や地理的論文などが掲載されている。

また、会員向けの通信誌として別にパークペクティブという冊子も発行している。図2は、セントポールで開かれた年次大会を伝える号の表紙であるが、大変読みやすいニューズレターになっている。



図2. NCGEのニューズレターの表紙

## 2. NCGE 1991年度大会の内容

1991年次大会は、幸運にも筆者が居住していたミネソタ州セントポールにおいて10月23～26日の期間、開催された。会場は、市内中心地に位置するラディソンホテル内であった。この大会の実行委員には、先に報告したNGSのミネソタ州研修会のメンバーが核となって当たり、その意味でも、全米地理教育復興運動と連携している面が人的にもあらわれたと言える。

大会のテーマは” This Land Is Our Land”

（この土地は、私たちの土地）であった。

学会のプログラムからカウントすると、次の七つのジャンル（発表形式の違い）に分けられて発表が行われた。（ ）内は発表数を示す。

- ①ビジネスミーティング（5）
- ②ソーシャルイベント（6）
- ③ワークショップ（12）
- ④ポスターセッション（3）
- ⑤スペシャルセッション（61）
- ⑥ペーパーセッション（107）
- ⑦フィールドトリップ（12）

一つ一つ紹介する紙面のゆとりはないので、以下に印象に残ったセッションについて記してみたい。

まず、24日に発表されたミネソタ州アップルバレーの中学校教師JoAnn Trygestad氏の発表は、11～14才の生徒の国際地理テストの結果報告であった。2つの中学校で比較調査した結果、男女の性差は地理的教養度の違いにあらわれていないという趣旨の内容であった。ジェンダーの地理学が問題になっている昨今、この種のテーマには、かなり関心が持たれている。

アイダホ州のジャクソン小学校教師のKatherine A Youngほかによる発表では、日本をケーススタディとした社会科学習のプランが示された。これは、第4学年のレベルを想定し、日本の人口の分布や歴史、文化を調べさせる学習プランを報告したものであった。日本についての関心は予想以上に高く、筆者の訪れた小学校数校でも必ずといって良い程、日本紹介のポスターやプログラムが組まれていた。

Jill Cook（ウァバシャケログ中学校）氏とJohn Daly（ウェイランド中学校）氏による”Ups and Downs—People and Places”（高さや低さ—人々と場所）の発表は面白かった。アメリカ合衆国の掛地図を床に敷いて、太いテープを東西にわたし、その断面図を作成させるというものであった。写真1と写真2にその内容を示した。段ボール紙を重ねていって、アメリカ大陸の地形の起伏の概略をつかませるプランである。参加者も手作りの教材を使い楽しく行う、教材紹介会のような雰囲気であった。



写真1. “Ups and Downs”の発表の様子  
(アメリカ大陸の掛地図・レリーフ地図  
の上にテーブルをわたしている。)

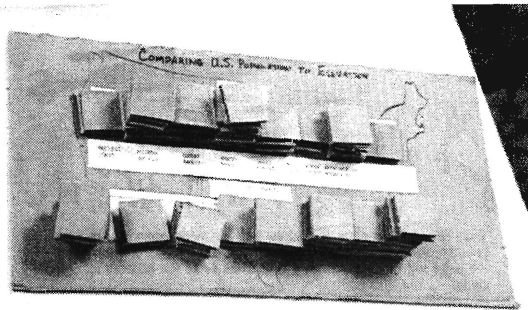


写真2. アメリカ大陸図の上に、6つのグレードに分けた  
高度(標高)のダンボールを積み重ねていく方法の発表

25日に発表されたRoger Downs とLynn Liben (ペンシルバニア州立大学) の発表もユニークなものであった。子供の空間知覚研究で著名な二人だが、ここでの発表テーマは「セサミストリートは、地理する」というものであった。アメリカの有名な幼児向け教育番組セサミストリートの中から、地理に関わるシーンを5つほどビデオで紹介した。地図と地図認識との関係の子供の宝さがしゲームの中で考えさせるセサミの番組や違う角度から公園を見下ろすことで平面地図化への学習移行を試みる番組などを紹介しながら、幼児からの地理教育の必要性について述べた。

1990年に『Seeking New Horizons : A Perceptual Approach to Geographic Education』McGill Queen's Univ. Press, 206pを出版したHenry W. Casther氏は、シンボルデザインについての発表を行った。出席者にいきなり左足のくつをスケッチさせ、なぜ自分のくつをそのように描いたかを説明させるところから話題は入った。つまり、側面図か平面図かの違いは、シンボルを地図上で使

うことの差にもつながるといやや哲学的な内容であった。

このほか、Geo-Manと称するマントを着た人物が会場に入り、各州別しりとりゲームを参加者で行ったり、カリフォルニア地理・歴史フレームワークのモデルの効果を報告した発表、1994年に全米地理教育復興運動の成果を確認するために実施する学力テストの内容についてのヒヤリング、自分の顔を地図上に描かせて、顔の起伏を地表に見立てて地図化させるユニークな学習法やとりわけ印象に残った中に、小～中学校の中庭(コンクリート部分)に描かせたプレイグランドマップの実践などは興味深かった。

研究発表以上に筆者にとって興味深かったのは教材会社による展示コーナーであった。NCGE大会では、計48の会社が教材・教具を展示していた。写真3は、後述もするがジオラーニング社の展示コーナーであり、魅力的教材が所狭しと並べられていた。わが国の事情と比べても雲泥の差とも言えるくらいの豊富さである。このほかにも、コンピューター地理ソフトの展示や地図グッズの展示販売、各州の観光PRとビデオの紹介など連日、もりだくさんのプログラムが組まれていた。おそらく500人以上の参加者があったものと思われる。

### III 最近の地理教材・教具

#### 1. 楽しいアクティビティブック

アメリカの児童図書を置いてある書店をのぞいてみると実に楽しい Activity Book の数々が目に入る。しかけ絵本や作業帖の類いが中心だがその種類は実に100を越すだろう。その中で地理に関するものは、ほとんどアメリカ国内の地理について学ぶ内容のものであった。最初に紹介したい本は、トリプルAという自動車安全会社(日本のJAFに類似)が出版したトラベルアクティビティブックである。これは、1991年に出版されたものでTom Koken, Jane Lipp, Kathleen Patonの3氏による144ページB5判大(一部分5色刷)の本である。価格は4ドル95セント(約500円)であるが、非常に面白い内容を有している。

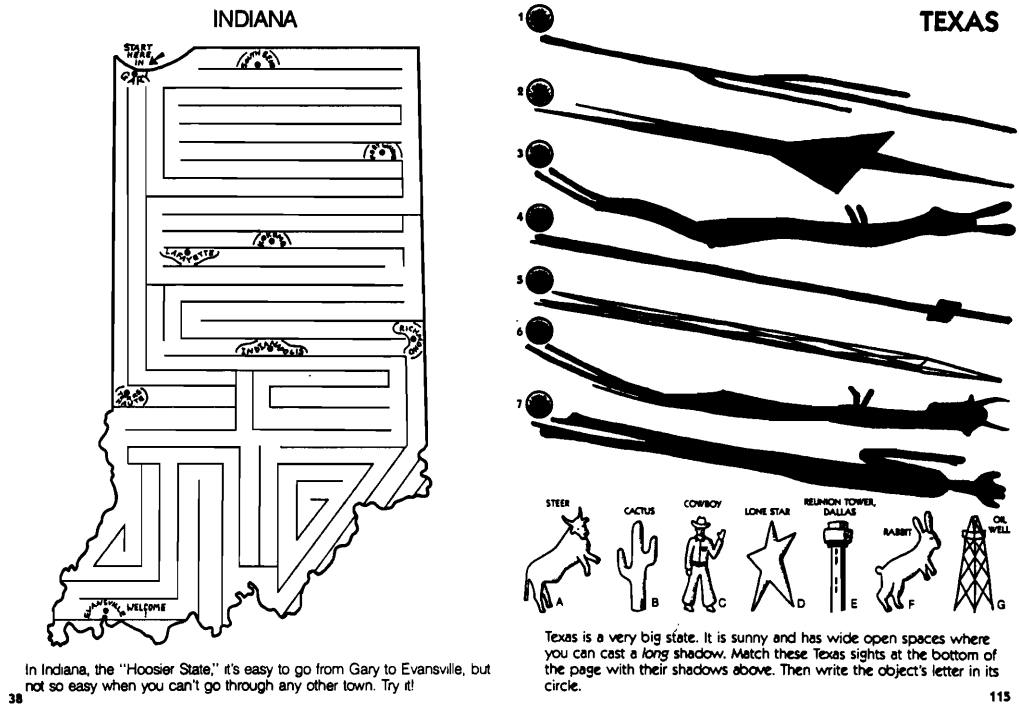


図3. トリプルA社のトラベルアクティビティブックより

図3に揚げたものがその中のインディアナ州とテキサス州の作業帖の部分である。本来、トラベル用に子供に渡し、車内やホテルでこの本をめくって、様々な作業学習を楽しませるために作られたものである。学習内容としては浅い知識を問うものであるが、子供たちは楽しみながら各州の地理を勉強できるのではないだろうか。図3の左側は、いわゆる迷路遊びの一種であるが知らず知らずの内にインディアナ州の形と主要都市名を覚えてしまいう工夫がしてある。右側のテキサス州の学習は、州内の主要な事物の影の形を当てさせながら、次第にテキサスの風土に近づける工夫がされている。

このほかにも、Educational Impressions社発行の "Journey Around The Nation" (79ページ、8ドル95セント) やイラスト満載の "Kids Learn America" (Patricia Gordon & Reed C. Snow著、Williamson Publishing Co社発行、1991年発行、174ページ、12ドル95セント) なども優れた内容を持っている。また、全米には、子供のための都市ガイドブックも4～5種

類発行されている。

図4はその中の1例であるが、ミネソタ州の中心都市であるミネアポリスとセントポール市（合わせてツインシティとよばれている）の都市域を子供と共に見回るためのガイドとなっている。内容は、農場紹介、空港、美術館、博物館、食堂、古い街角、動物園、公園、植物園、ピザ工場、地図販売店、警察署、自然センター、放送局、新聞社、スポーツ観戦の場所、YMCA施設などがやさしい英語で書かれている。イラストや地図も挿入されており、これを手にした家族が容易に街へ出ていけるような工夫が施されていると言えよう。この本の詳細は以下の通りである。

Elizabeth S. French著 "Exploring the Twin Cities With Children (子供といっしょのツインシティの探検)、116ページ Nodin Press Inc、1991年発行。このほかにも、ボストン、ニューヨーク、ロサンゼルス、ワシントンなどの諸都市の子供向けガイドブックが出版されているが、それらの内容については別の機会に紹介したい。

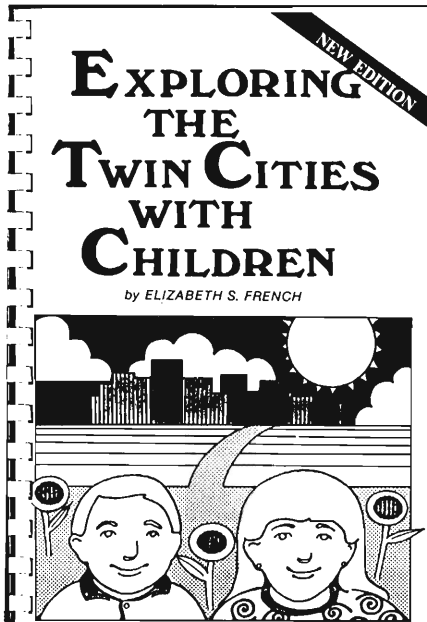


図4. 子供向け都市ガイドブックの1例

## 2. 面白い地理・地図教具の数々

アメリカの地理教育は、小～中学レベルの教材教具が極めて豊富である。前述した学会の展示コーナーでも、街角の書店にも容易に地図教材を見出すことができる。最大手のランドマクナリー社は、地図下敷きを5～6種類発表し、セット価格で安価に教育現場へ売り込んでいる。またフロアマップ（床地図）と称する大型のビニール製の地図も発売し、子供たちがマジックで書き込んでも消せる大型世界床白地図を開発している。

写真3は、ジオラーニング社のカタログであるが、地球儀やアトラスといった従来の教具にひと工夫を施し、手作り地球儀やパズル型の世界全図、パズル航空世界地図、地理ゲーム、星座早見盤、ビニル製地球儀などを3ドルから24ドル程度で発売している。延べ30近い商品リストが備わっており、地理学習の魅力をいっそう引き出している。

写真4は、エデュケーションアルインサイツ社のジオサファリである。これは、地名、歴史、文化、産業、スポーツ、レジャーなどのテーマごとのカードを写真中の卓上盤に置き、それぞれのテーマについて、問題が声で流れ、回答するというシステムである。学習ゲームとして自学自習できる方式



写真3. 各種の地理教材（ジオラーニング社の場合）



写真4. “ジオサファリ”と呼ばれる地理学習ゲーム機

がとられている。価格は99ドルである。

このほかにも、ルーレット式に世界の地理学習を進めるものも開発されている。例えば、アフリカのガーナを選ぶとそのカードに入っている問題番号をルーレットで選び、出た数を回答するという方法である。回答者は、次々と解答し、正解した問題にかかわる地図上に旗を立てていくことができる。アメリカ人は、このようなキットやゲーム類の類いに非常に興味を示し、とりわけ思考能力を育成することにかけては、力を入れて教具を開発している。街の教材ショップに入ってみても各教科ごとの教材ポスターや作業帖、コンピュータソフト、教材グッズは数えきれないくらい目に入ってくる。

かといって手作りの教材は少ないかというところではなく、“Hands on Geography”という呼び名で、実にユニークな学習法や教材が次々と開発されている。

#### IV ナショナルジオグラフィック社のリーダーシップ

全世界にナショナルジオグラフィックマガジンを販売してきた全米最大の地理出版社、ナショナルジオグラフィックソサエティ社は、教育部門を設け、精力的に各地を指導員に回らせ地理の啓蒙に努めている。筆者も参加したNGSサマーセッションにも、ワシントンの本部事務局から女性の指導員が出向き、熱心にPRビデオを流し、説明していた。筆者が在米中に出版された“Directions in Geography: A Guide for Teachers”（地理学の方角―教師用指導書）は、176ページの小冊子ながら、実によく出来た内容を有していた。図4にその目次を示すが、地理学の特色を手短かにまとめた上で、具体的なレッスンプランを15例示した後、地理教材資料の使い方や各種白地図を掲載し、実践的な内容に彩られていた。魅力的な写真や話題も多く、いかに地理学が有用の教科であるか、が明確に述べられている。もちろん、Location, Place, Human Environment Interactions, Movement, Regionsといった5大基本テーマについての解説も丹念であり、世界地理の中のいろいろな話題から、これらの概念を解説している。1992

## Table of Contents

<b>1</b>	<b>Geography: Understanding and Appreciating the World .....</b>	<b>7</b>
<b>2</b>	<b>Geography: Teaching Fundamental Themes and Skills .....</b>	<b>21</b>
<b>3</b>	<b>Bringing Geography Back .....</b>	<b>39</b>
<b>4</b>	<b>Lesson Plans .....</b>	<b>53</b>
	Using Picture Books to Teach Geography .....	57
	Neighborhood Services—Where Are They and Why? .....	65
	Environmental Explorer .....	68
	Changes in Coyote Park .....	74
	A Summer Day .....	80
	Look! You're Wearing Geography .....	83
	Valley Forge: Using Primary Sources to Teach Geography .....	86
	Made in the U.S.A. ....	100
	Selection of Settlement Sites .....	105
	Fighting Cholera With Maps .....	113
	Bermuda Triangle Mystery .....	118
	Regions. A Hands-on Approach .....	125
	Using Cartograms to Study Trade And World Population .....	129
	Climographs and Deductive Reasoning .....	135
	Mental Mapping .. ..	144
<b>5</b>	<b>Using Geographic Resources .....</b>	<b>151</b>
<b>6</b>	<b>Outline Maps .....</b>	<b>161</b>

図5. “Directions in Geography (1991)” の目次

年にワシントンで開かれたIGU（国際地理学会議）においてもナショナルジオグラフィック社の後援は多大なものがあつたであろうし、各種教材・地図類が多く発売されたことであろう。

このほかにも、アメリカ地質調査所の協力で出版された“Helping Your Child Learn Geography”（25ページ）という小冊子も5大基本テーマについてわかりやすく解説してあり、地理教育の復興運動をすすめる上で役立っている。

#### V おわりに

本稿では、筆者が一昨年に参加したアメリカ地理教育協議会（NGGE）大会の様子と最近の教材・教具について簡単に紹介してきた。このほかにも、環境学習に関する出版物も多く、すでにその一部は日本でも『地球を守る50の方法』などのタイトルにみられる訳本が出されているが、実際は、その20～30倍の種類の出版物が環境学習書と

して出版されている。市街地のデパートやショッピングセンターの中にある”ミュージアム”という名前のチェーン店などに至っては、数々の環境グッズが並べられ盛んに環境保護やナチュラルリストの啓蒙に努めている。

地理教育は、環境学習との連携を深めているとはいいがたいが、地形図判読や各種の地図づくり、主題図づくりの上では、地理の素養が必要であり、今後、その関連を強めていくことは十分予想されるだろう。また、エイズ教育と発展途上国の学習、開発学習問題と地理、博物館学習と地理クラブ、オリエンテーリングなどとの関係もアメリカではみられ、わが国に比べて、地理を取り巻く世界が多様で実に大規模である感じを受けた。

全米地理教育復興運動は、この成果を着実にあげてはいるものの未だ、アメリカ市民の地理学力を目立って向上させたとの感触は得られていないようである。今後、この運動の経過と国民への寄与した面を丹念に検討していく作業を行いたい。

(付記)

アメリカ滞在中、お世話になったミネソタ大学 John, J. Cogan 教授、並びに、マカレスター大学、David Lanegran 教授、Jerry Pitzl 教授に記して謝意を表したい。

(1992年12月24日受理)